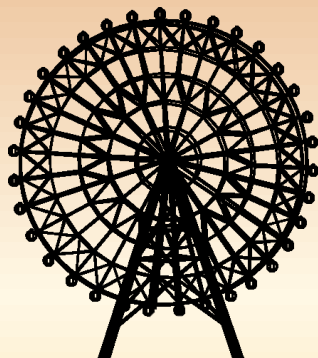




本で知る



万博



The Expo in the Books



図書館サポーター推薦

Monday, Feb. 10 - Friday, Apr. 25, 2025



●企画展示：本で知る万博

- 図書館では、図書館サポーターが選んだ万博に関する本を紹介します。
- 4月に開幕する大阪・関西万博を前に、万博に関連する技術や建築、芸術、都市開発などの分野に加え、今回の万博のテーマや過去の万博、そしてその影響についての図書を取り揃えています。
この展示を通じて万博の多様な側面を知り、「万博」を再発見してみませんか？

● リストの見方

図書タイトル・著者

配架・請求記号

推薦文

蔵書検索
QRコード

- 展示図書は、借り出すことができます。気になった本を手にとってご覧ください。
貸出中の図書を予約したり、大岡山・すすかけ台の図書の取り寄せもできます。

● ブックレビュー

展示図書は、大岡山・すすかけ台図書館蔵書検索で、展示図書のページを開くと、
図書館サポーターの推薦文を見ることができます。

リストに掲載した URL・QR コードから、ぜひご覧ください。

● ブクログ

大岡山・すすかけ台図書館でこれまで実施してきた展示で取り上げた図書を、
ブクログでご紹介しています。

こちらをあわせてご覧ください。

<https://booklog.jp/users/lidance>

みんなの楽しい修行：より納得できる人生と社会のために
/ 中野民夫著

大岡山図書館 B1F- 一般図書 159/N

2005 年愛知万博で市民参加事業「地球市民村」のプロデューサーを務めた東京科学大学名誉教授、中野民夫先生により書かれた本です。今回の大阪・関西万博は「いのち」をテーマとして、一人一人のいのちのあり方、生き方を見つめ直すことを目指しています。この本は、私たちが個々人としてどのように万物とつながるかや、より納得できる人生と社会のための二つの基本と八つの道を提示しています。「ぜひ『楽しい修行』をお勧めしたい！」

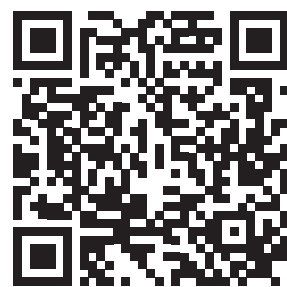


科学の歴史 / 21 世紀科学教育懇談会編

大岡山図書館 B1F- 一般図書 402/N

すずかけ台図書館 2F- 一般図書 402/N

「科学万博—つくば’ 85」記念出版図書。大昔から当時（1985 年）までの世界各地で誕生した「科学的な発見」や「技術の発明」が収録される事典のような本。中身は、時代ごとの世界の有名な科学技術に関する出来事やそれに至るまでの経緯、当時の根拠などについて、イラスト・写真つきで紹介されている。説明は専門的すぎず分かりやすく、理科・科学の教科書に登場するお馴染みの名前も満載！！歴史に辿り、徐々に変わってくる「科学」に対する思考が見られ学べる一冊。



チャンスは準備された心にのみ降り立つ / 福岡伸一著

大岡山図書館 B1F- 一般図書 460.4/H/3

科学の歴史は、切り取った情報の解析により構築されてきたが、果たしてそれは生命の本質を捉えられているだろうか？ 2025 年に開催される大阪・関西万博の「いのち動的平衡館」の館長を務める福岡伸一氏の代表作「動的平衡」シリーズの 3 作目である。本書では、氏の専門とする生命や芸術の分野が時間の連続性に基づいて語られる。とりわけ「動的芸術論」の章では、現象の本質を時間の連続性の中から見出すという、動的平衡の視点の重要性が説かれている。



郊外・原発・家族：万博がプロパガンダした消費社会 / 三浦展著

大岡山図書館 B1F- 一般図書 365/M

著者は、日米志向の万国博覧会の影響下における郊外住宅地と消費社会のつながりを観察している。これまでの研究では、万国博覧会の歴史や展示内容など関連するコンテンツの山が中心であり、万国博覧会の経済効果に関する研究も多かったが、本書では郊外住宅地という独立な視点から、万国博覧会の経済効果の分析に新たな側面を与えている。ただし、本書は著者の通年研究ノートであるため、見出しが多くなっており、読者は2015年に刊行されたこの本が、今日の郊外住宅居住者の高齢化や空き家を背景に、万博の消費効果が今日の日本社会に与える影響をどのように考えることができるのか、核心的な内容を把握して引き出す必要がある。同時に、中国やヨーロッパ、そして日本やアメリカ以外の国でも、中産階級の郊外住宅には新たな危機が訪れているのか、それとも新たな展開があるのか。著者のビジネス実践も相まって、比較的ニッチな視点から新しいアイデアを読者に提供する。



Society5.0の実現に向けて / 文部科学省編

大岡山図書館 B1F- 集密：白書 505.9/Ka/2021

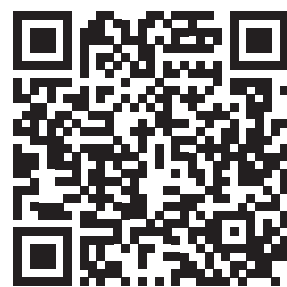
科学技術・イノベーション白書は政府が毎年発行する報告書で、科学技術やイノベーションに関する政策や取り組み、最新の研究成果や動向をまとめたものです。日本の現状や施策がまとめられているだけでなく、毎年の年ごとのテーマに沿った特集も載っており、令和3年版は「Society5.0」を扱っています。2025年大阪・関西万博はSociety5.0を一つのキーワードとして掲げています。白書にはそもそもSociety5.0ってなに？というところから、それによりどのような社会が訪れるのか、そのためにどのような取り組みがされているかといったところまで、分かりやすくまとめられています。万博に行く前の予習としておすすめの1冊です。



リニアモーターカーへの挑戦 / 長池透著

大岡山図書館 B1F- 一般図書 516.86/N

1970 年、アジア初の国際博覧会であり、当時史上最大の規模を誇った日本万国博覧会が開催されました。その大阪万博で展示されたものの一つがリニアモーターカーです。本書は、当時”夢の乗り物”であったリニアモーターカーの開発に挑んだ、技術者たちの苦悩と努力の軌跡を描くドキュメンタリーです。2025 年の大阪・関西万博に向けた未来技術への期待を膨らませつつ、科学の可能性を追求する姿勢に胸を躍らせてみませんか？

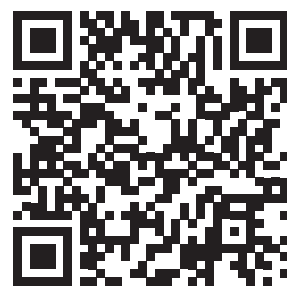


大阪万博が日本の都市を変えた

： 工業文明の功罪と「輝く森」の誕生 / 吉村元男著

大岡山図書館 B1F- 一般図書 518.85/Y

この本は、1970 年に行われた大阪万博と万博公園の計画に携わった環境プランナーの著者が、大阪万博と、その後の土地を「人と自然の新しい関係の再建」を目指す都市公園としてどう転換していったのかを説明しています。万博と公園というキーワードは一見離れているように見えますが、両者とも都市に関係する大きな要素であると実感しました。万博という国をあげての大イベント後の土地をどう使うのか、を考えさせられる本です。

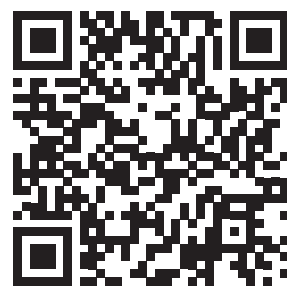


大阪万博が日本の都市を変えた

： 工業文明の功罪と「輝く森」の誕生 / 吉村元男著

大岡山図書館 B1F- 一般図書 518.85/Y

世界で初めて開催された万博から、大阪万博が開かれその後の土地の現在に至るまで。前半では、いままでの万博開催の歴史と日本での万博開催までの流れが書かれている。これまで万博が各地でどのように開催されていたか、その後日本で万博が行われることとなった背景とは。後半では大阪万博が行われた後の万博公園の整備について書かれている。万博が行われていた土地に森をつくるという今までにない計画が実施された。どのような意図で森が作られ、どのように維持されているのか、そして森が都市に何をもたらしたのか。「万博」とは何かを知るためにおすすめの一冊。



藤本壮介：原初的な未来の建築 / 藤本壮介〔ほか〕著

大岡山図書館 B1F- 一般図書 520.87/G/1

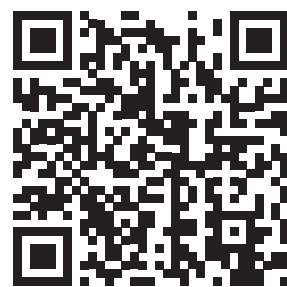
2025 年大阪・関西万博と言えば、「大屋根リング」。海外パビリオンを囲むように作られ、一周およそ 2 キロメートルの世界最大級の木造建築物となるようです。そんな「大屋根リング」を設計したのが、建築家・藤本壮介氏。この本は、彼の言葉や考え方、眺めるだけでワクワクするイラストや模型の写真、実際の建築作品まで盛り沢山の一冊です。万博に行こうと思っている方もそうではない方も、ぜひ手に取って読んでみてください。



三都建築散歩：大阪、京都、神戸：旅をしたくなる建築
/ 矢部智子編集・執筆；清水奈緒写真

大岡山図書館 B1F- 一般図書 523.16/Y

あの有名な岡本太郎による太陽の塔は大阪府の北部、吹田市にあり、1970 年の大阪万博のテーマ館の一部として製作されました。そして、2025 年の大阪・関西万博はユニバーサル・スタジオ・ジャパン（USJ）にもほど近い夢洲にて開催される予定です。この本では太陽の塔をはじめとした、大阪、京都、神戸の三都市にある巡りたくなるような建築が写真とともに紹介されています。来る 2025 年の万博を見に行くついでにこの本で紹介されている建築を巡ってみるのはいかがでしょうか？



アール・デコ建築意匠：朝香宮邸の美と技法
/ 東京都庭園美術館編

大岡山図書館 B1F- 一般図書 529/To

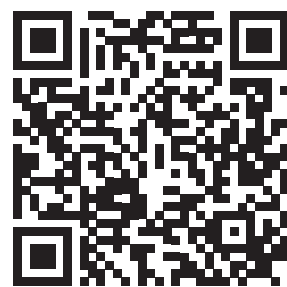
1925 年、パリで開かれた「現代装飾美術・産業美術国際博覧会」通称「アール・デコ博覧会」。日本も茶室や伝統工芸品を出品し、職人の技術が高く評価されました。パリに滞在中だった朝香宮鳩彦王は最新のデザインに感動し、白金台にアール・デコ様式の自邸を計画します。完成した朝香宮邸は、現在は東京都庭園美術館として親しまれています。100 年前の人々が魅せられたアール・デコを、この本で体験してみませんか。



アバターと共生する未来社会 / 石黒浩著

すずかけ台図書館 2F- 一般図書 548/I

2025年には「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマで大阪・関西万博が開催されます。このテーマに関連した8つあるサブテーマ事業のうちの一つ、「いのちを拓げる」の担当プロデューサーである著者が、アバターがもたらす社会の変化について記したのが本書です。アバターとは何か、アバター研究の現在と未来など、アバターに関するあれやこれやについて分かりやすく解説されています。大阪・関西万博に関する章もあるので、現地を訪れる前にぜひ読んでみてください。



面発光レーザーが輝く：VCSEL オデッセイ / 伊賀健一著

大岡山図書館 B1F- 一般図書 549.95/I

すずかけ台図書館 2F- 一般図書 549.95/I

今回の大阪・関西万博では光通信による 6G 技術の実証、ドローンを用いた空間イルミネーション等、光技術の展示が注目されています。これら光技術のレーザーデバイスに使われることも多い”VCSEL”は元学長の伊賀健一栄誉教授・名誉教授が開発したものです（コピー機や iPhone にも内蔵されています）。本書は開発の歴史や当時の思いなどが先生自身の手によって書かれたものです。専門的な知識が無くても読みやすいため、研究の合間に手にとってはいかが。



万博入門：新世代万博への道 / 平野暁臣著

大岡山図書館 B1F- 一般図書 606.9/H

最近の万博ってどうなの？そもそも万博って何……？1970年の大阪万博を知らない世代にとっては、このような万博の基本情報から知りたいという人も多いはず。本書では万博研究の第一人者である著者が、Q&A形式で万博に関する様々な質問に回答しています。わかりやすい解説と【万博3.0】を萌芽させたいという著者の熱い想いを読めば、万博を見る目が変わることも間違いなしです。



地方都市の覚醒：大正昭和戦前史：博覧会篇 / 山路勝彦著

大岡山図書館B1F-一般図書 606.91/Y

大阪・関西万博を控える今、これまでの博覧会の歴史に触れてみませんか？本書は、大正から昭和戦前期にかけて開催された博覧会を題材に、地方都市がいかに技術革新・地域活性化を実現したのかを描きます。技術そのものだけでなく、都市づくりの観点からも、豊かな図とともにこれまでの歴史を味わい深く学ぶことができます。過去の挑戦から2025年の大阪・関西万博への期待を感じられる一冊であり、理工学を専攻するみなさんにぜひ手に取っていただきたい作品です。



パリ万国博覧会とジャポニズムの誕生 / 寺本敬子著

大岡山図書館 B1F- 一般図書 606.935/Te

19 世紀後半にヨーロッパで巻き起こったジャポニズムの流行に、万国博覧会は大きな影響を与えています。この本では、長く鎖国を続けていた日本が初めて公式参加をした 1867 年のパリ万博、そして続く 1878 年のパリ万博に着目し、開国直後欧米でどのように「日本」像が形成されたのか、その裏にある関係者の思惑や「日本の文化」に熱狂したフランス側の事情について多角的に述べられています。この一冊で、万博が社会に与える影響の大きさが伝わってくるでしょう。ちなみにエッフェル塔ができるのは次の 1889 年のパリ万博です。

